

会 議 録

1 会議名

第4回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1)報告（公開）

ア 会長報告

- ・特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原と野澤副市長との懇談について

イ 委員報告

（報告なし）

(2)協議（公開）

ア 令和2年度活動計画について

(3)その他（公開）

ア 次回の開催日時等について

3 開催日時

令和2年6月26日（金）午後6時6分から午後7時20分まで

4 開催場所

浦川原コミュニティプラザ 4階 市民活動室4・5

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：赤川義男、池田幸博副会長、小野正広、春日清美、北澤誠、北澤正彦、五井野利一、杉田和久、藤田宏禎会長、宮川勇、村松進副会長
- ・事務局：浦川原区総合事務所横田所長、小嶋次長、五井野次長、総務・地域振興グループ北澤班長、鷺津主任

8 発言の内容

【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・出席者は11人。欠席委員は相澤誠一委員。

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告。
- ・会議録の確認：池田幸博副会長に依頼。

【藤田会長】

それでは「2 報告」に入る。「(1) 会長報告」であるが、1件報告する。

当協議会とは直接関係ないが、6月22日（月）の午後1時30分から特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原と野澤副市長との懇談会が開催された。

特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原は、横尾修一副理事長、村松進副理事長、池田幸博事務局長と私の4人で対応した。

この話の中で、地域協議会に関することでは、旧末広小学校、旧中保倉小学校の両校舎の再利用について、そして、霧ヶ岳温泉ゆあみの利活用について懇談した。これまで地域協議会で議論を深めてきたことや、市の持ち物であることから市としての協力、活用についての努力をお願いしたいという趣旨の話をした。

続いて、「(2) 委員報告」について委員の皆様から何か報告事項はないか。

（会場内より「なし。」の声）

続いて「3 協議」に入る。「(1) 令和2年度活動計画について」、五井野次長からの説明をお願いします。

【五井野次長】

（資料1に沿って説明。）

【藤田会長】

今の説明について、委員の皆さんから質問等を受けながら進めていきたい。

最初の「出張地域協議会」であるが、旧小学校区単位で下保倉、末広、月影、中保倉の4地区において、各町内会長連絡協議会を通じて日程調整して開催している。このことについて何か意見、質問等ないか。

【北澤（正）委員】

この出張地域協議会の開催は本当に必要なのか。

説明にもあったが、出席者が固定化されてしまって開催しなかったこともあると言われたが、開催しなければならない何か決まりのようなものがあるのか。

【藤田会長】

決まりは無い。毎回、同じ場所で開催していても、なかなか地域協議会の活動を理解してもらえないこともあり、住民の意見等も出てこない状況である。そこで、こちらから出

かけて行って地域協議会を開催するといった内容のものである。そこに、何か決まりがあるわけではない。

【北澤（正）委員】

それならば、開催する、しないも含めて皆さんの意見等を聞いた方が良いのではないか。

【藤田会長】

それで結構である。北澤（正）委員は、開催の必要はないという意見でよいか。

【北澤（正）委員】

そうである。

【藤田会長】

出張地域協議会について、私の記憶の中では平成26年頃から、実際に各地区を巡回して開催していた。しかし、その出張地域協議会で出される意見は、行政が対応すべき内容が多く、例えば、マンホールや側溝の蓋の破損、用水の活用など、住民に直結した形の意見が多かった。そこで、当時の所長は、その意見を聞いて地域と行政との出張懇談会を開催するようになったため、地域協議会としては、テーマを投げかけて意見をいただく、具体的には小学校の統廃合やゆあみの問題などの意見をいただいたという経緯がある。

委員の皆さんから地域に触れていただくための地域に出での開催提案である。また、細かく地域の人達の意見等を吸い上げていきたいという思いがある。

他に委員の皆さんから意見等ないか。

【村松副会長】

私も第4期の委員の時に回った記憶がある。

今日も地域協議会を開催しているが、傍聴人が一人もない状況である。出張することにより、地区協議会の会長や町内会長から傍聴いただいている。やはり、地域協議会委員の顔と名前を知ってもらうことも大事であり、また、区ではどういったことに取り組んでいるかを知ってもらう、そして提案や意見をもらうといったことが大事なのではないかと思う。出かけて行っても出席される人は少ないが、傍聴人が誰もいないことよりは良いのではないかと考える。

第4期の後半の2年間は出張地域協議会の開催は無かったが、今考えてみると開催した方が良かったのではないかと思っている。

【藤田会長】

他に意見等ないか。

【春日委員】

いろいろな人の意見を聞きたいという思いがあり、各地区を回っていろいろな人の話を聞いてみたいと思う。今後、出てくるかと思うが、この地域協議会からの提案事項などを地域の皆さんへ説明し、地域協議会の活動内容を知ってもらい、地域の皆さんの協力を得られるような努力も必要と思われるため、出張地域協議会は実施してみたいと思う。

【藤田会長】

他に意見等ないか。

【北澤（誠）委員】

以前、私が地域協議会委員をしていた頃は出張地域協議会を実施していた。当時は、2つの大きな議案を持って回っていて、それに付属していろいろな意見が出されていたと記憶している。また、他の区でもこの出張地域協議会を始めた区もあり、有効なものだと考えるため、今後も続けていった方が良くと思う。

【藤田会長】

28の地域自治区において、この出張地域協議会を開催したのは浦川原区が最初で、他の区が追随したという経緯もある。こちらから出向くことには意味があると思っている。

賛成の意見が多いため開催することとし、事務局とも相談しながら時期を決定していく。

次に「中学生との意見交換会」について意見等はないか。

【村松副会長】

第4期は、私が実行委員長として実施したが、最初は1年生を対象にして3年生の時にまとめるつもりでいたが、先生から3年生になってしまうと高校受験等で手いっぱいになってスケジュールが空かないといった意見があり、1年生の時に実施して、2年生になってまとめることにした。

生徒たちは、浦川原区について知っているようで知らないことがたくさんあるため、総合学習を通じて、浦川原区の産業や文化、歴史など各地を回って学び、バス内では非常に和やかで、視察の現場では鋭い質問等も上がったと聞いた。

今年は新型コロナウイルスの関係で学校の授業が遅れているが、そんな中でも総合学習の時間は設けていると思われ、どこまでできるかわからないが、生徒の皆さんから浦川原区のことを知ってもらって、まとめてもらいたいと思う。

【藤田会長】

文化や産業など、次世代の若者に郷土の良さを再認識してもらうために必要だという意見であった。少子高齢化や都会への流出などを少しでも防止できれば良いと考える。また、地域の産業や文化を知ってもらい、この地域に残りたいと思ってもらえるように意見交換

会を実施している。村松副会長の話にあったように、地域に根差した文化や産業をこの地域の生徒に知ってもらうことが大切である。

この中学生との意見交換会は継続ということでよいか。

(会場内より「はい。」の声)

【横田所長】

本年度、小中学校の校長先生、保育園の園長先生と月1回、定例的に教育懇談会という情報や課題を共有する場を設けている。地域協議会との意見交換会の実施について、1学期中は難しいと思うが、2学期以降に実施できるかどうか、その場で相談してみたい。

【藤田会長】

続いて「研修会」であるが、資料にもあるとおり、大浦安合同の研修会を持ち回りで実施しており、昨年度は浦川原区が当番であった。今年度は大島区が担当になっている。

このほか、浦川原区が自主的に実施している研修会があり、事務局の説明の中で視察という話も出ているが、十分協議して進めていきたいと思う。大浦安の合同研修会は、大島区が担当で、大島区が準備すると思うので、浦川原区独自の研修会について皆さんから意見等いただきたい。

今期、8人の委員が入れ替わり、地域協議会の役割の大切さなど、中身をきちんと把握して出席していることは十分承知しているが、より深く理解するため、私の提案だが、自治・地域振興課の課長から説明してもらうとともに、意見交換会をしたいと思っている。

平成29年度に一度実施していると思う。所長いかがか。

【横田所長】

おそらく快諾と思う。委員の皆さんにとって必要な情報を提供することは、事務局の大切な役割であり、本日決定されれば、すぐに自治・地域振興課長に話をつなげていく。

【藤田会長】

この内容で実施することよろしいか。

(会場内より「はい。」の声)

それでは所長、調整をよろしくお願ひしたい。

【横田所長】

できるだけ早い時期に実施できるようにしていきたい。

【藤田会長】

その際は皆さん、ぜひ全員出席していただきたい。

次に「浦川原区地域協議会だよりの発行について」であるが、編集委員は輪番制が慣例

となっている。委員自ら地域へ発信することは大事なことである。皆さんの意見はどうか。

【村松副会長】

昨年は4班に分かれていた。資料にいくつか案が記載されているが、今期は4人1組の3班体制で、編集の確認は正副会長が行うことで良いのではないかと思います。

【藤田会長】

今の意見では、発行は3回、編集委員は4人で、確認は正副会長の3人でどうかといった提案である。

【春日委員】

平成30年度と令和元年度は2回の発行で、編集委員は3人1組の4班のようだが、1年目に2班、次の年に残りの2班ということでよいか。

【藤田会長】

本来は、3回ないし4回の発行をしなければならなかったと思う。しかし、いろいろな事情があって2回の発行になってしまったということである。

【春日委員】

それでは、年3回以上発行するのが前提なのか。

【藤田会長】

そうである。ただ、内容の問題もあるため、ただ発行すれば良いというものでもない。

【春日委員】

発行回数の3回というのは決まっているのか、この協議で回数を決めることができるのか。

【藤田会長】

発行回数は協議で決定する。

【春日委員】

了解した。やはり内容が大事で、私が記憶しているのは中学生とのワークショップがあり、各委員のコメント等もあったのは記憶している。活動内容を地域の皆さんに知ってもらうという趣旨でこのたよりを発行すると思うが、内容をきちんと決めなければいけないのではないかと思います。その内容によって発行回数も決まってくるのではないかと考える。

【藤田会長】

今回も同じ内容になると思われるが、過去、1回目の発行は7月25日の発行となっていて、新たな地域協議会委員12人の紹介の記事であり、そして2月13日の発行では主に中学生との意見交換会の記事を掲載していた。都度、何をテーマに掲載するかを決める

ことが編集委員の役割になる。今回は7月の発行になると思うが、記事の内容としては各委員の紹介記事になると思っている。

【春日委員】

地域協議会委員を知ってもらえば、年3回の発行で良いのではないかと考える。

【赤川委員】

年3回の発行する時期は決まっているのか。

【藤田会長】

腹案としては、7月、10月、1月である。10月であれば活動内容を掲載できるのではないかと考える。また、1月では年度末が近づいてきているので、次年度に向けてのステップ等の掲載、10月に載せきれなかったものを1月に載せるということになると思う。

【赤川委員】

年度は4月1日から翌年3月31日までということか。

【藤田会長】

そうである。それでは、先ほど村松副会長から提案のあった、発行は年3回で、編集委員は1班4人とし、各班には正副会長が1人ずつ入るということでよいか。

(会場内より「はい。」の声)

7月については、委員の皆さんにコメントを一言ずつお願いすることになると思うのでよろしく願います。

【五井野次長】

発行回数と委員の体制について決定したが、会長、副会長含めてどの班に入るか、班編成についても決めていただきたい。

【藤田会長】

会長である私が1回目、7月の班に加わる。そして2回目、10月は池田副会長に、3回目、1月は村松副会長にお願いしたい。そして他の3人のメンバーであるが五十音順とさせていただきたい。

【五井野次長】

それでは他のメンバーは五十音順ということによいか。

【春日委員】

くじ引きの方が面白いのではないか。

【藤田会長】

事務局、くじは用意できるのか。

【五井野次長】

可能である。

(くじ準備。各委員が順番にくじを引く)

【五井野次長】

それでは確認させていただく。

第1班：藤田会長、北澤（正）委員、五井野委員、春日委員

第2班：池田副会長、宮川委員、北澤（誠）委員、小野委員

第3班：村松副会長、杉田委員、赤川委員、相澤委員

以上である。よろしいか。

(会場内より「はい。」の声)

【藤田会長】

事務局と話をしながら発行日やテーマについて協力してもらうことになると思うので、よろしく願います。

次に「4 その他」の「(1) 次回の開催日時等について」であるが、7月29日(水)の午後6時から、コミュニティプラザで開催したいと考えている。午後6時からとしているのは、地域活動支援事業の追加募集の審査のためであり、後程、事務局から話がある。

【五井野次長】

地域協議会だよりの発行について、今一度確認したい。「5 編集方法など」の項目の「たよりの体裁(紙厚、サイズなど)」については、都度確認するということでよいか。

【藤田会長】

それでよい。

【五井野次長】

それと最終確認方法であるが、①正副会長が確認するのか、②地域協議会において確認するのか、③編集委員に一任するのか、いずれにするか。

【藤田会長】

正副会長と編集委員が最終確認することでいかがか。誤字脱字の確認、チェックが大変であり、正副会長と編集委員で確認したいと思っている。内容については編集委員の4人に任せても良いのではないかと思う。それでよろしいか。

(会場内より「はい。」の声)

【五井野次長】

編集方針については編集委員に一任して紙面を作ってもらい、その後の誤字脱字、発行

の前段の部分の確認について、正副会長を含めて編集委員が確認するのか、正副会長のみが確認するのかどちらか。

【藤田会長】

当然ながら、編集委員は文書の作成時に誤字脱字もきちんと確認してから最終確認となるわけで、その最終確認、チェックは正副会長で良いと思う。

【五井野次長】

資料にある例の①ということで良いか。

【藤田会長】

そうである。

【五井野次長】

最終確認は正副会長が確認してGOサインを出すということで良いか。

【藤田会長】

そうである。それでよろしいか。

(会場内より「はい。」の声)

それでは事務局から何かあるか。

【五井野次長】

1点目、地域活動支援事業の追加募集については、7月13日(月)を期限に実施しており、現在2件の問い合わせが来ている。今後、期日までに応募があった場合は、7月の地域協議会で審査を行っていただくことになる。前回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、質問の回答を事前にもらってから審査を行ったが、今回は、従来の採択方針に戻し、プレゼンテーションも含めて実施する予定である。ただ、補助金額が3万円ということもあり、できるだけ時間短縮を図って実施していきたいと考えている。

2点目、前回の地域協議会において諮問案件における書面審議について決定したが、本日は決定事項を記入した資料をお配りした。決定日から規定の効力を有しており、有事の際にはこのとおりとなる。

3点目、「主要事業・プロジェクトの概要」、「ウイズじょうえつからのおたより」、「地域の宝認定制度募集チラシ」を配布した。今後の活動の参考にしていただきたい。

【藤田会長】

他に皆さんから何かあるか。

【村松副会長】

皆さんが差し支えなければ、地域協議会委員の電話番号、携帯電話番号をお教えいただ

きたい。個人情報になってしまうが、何かあった場合に連絡が取れるようにということで、前期も一覧表を作成した。第5期でも一覧表を作成したほうが良いのではないかと思う。

【北澤（誠）委員】

上越タイムスに地域活動支援事業で特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原が、乗用草刈り機を購入したと記事が載っていた。また、リウラとラウラの補修において草刈りをしている記事も見た。決定事項を伝えただけなのではないかと思うが、その後の動きを聞きたい。

【藤田会長】

採択後の事業の動きはどうかということである。

【横田所長】

基本的に補助金であり、交付決定を経て実施することになるが、手続の面では、実績報告書の提出をもって事業完了となり、その中間で何か手続的なものを求めているわけではない。実態として各ニュース等々で報道されていることが事実である。最終的には実績報告とりまとめ後に皆さんに報告する。

【北澤（誠）委員】

了解した。

【藤田会長】

村松副会長から各委員の電話番号、携帯電話番号の一覧表の作成について提案があったが、皆さんよいか。

（会場内より「賛同する。」の声）

それでは事務局から一覧表を作成してもらい、各委員へ配布してもらいたい。ただし、個人情報を含んでいるため、各委員の慎重な取り扱いをお願いします。

他に何かないか。

【北澤（正）委員】

平成2年度の活動計画が本日決定したが、藤田会長は事前に今回の会議の議題になることは知っていたのか。

【藤田会長】

令和2年度活動計画については、正副会長に提案があり、その結果を形にしたものが今回の活動計画の案である。

【北澤（正）委員】

計画案ということであれば、事前に地域協議会委員として他の活動の案がないかを確認

してもらいたかった。

【藤田会長】

事前に資料を送付しているはずだが。

【北澤（正）委員】

自分の所に届いたのは火曜日である。そこから資料を見ていたが、この資料から活動計画案だとは読み取れない。今年度新たに地域協議会の活動として他の皆さんが考えているものがあるのかないのか、そういった時点の話から始まるのではないか。

【藤田会長】

それは自主審議の部分に入る。皆さんから「こういったことを審議したい」という提案があれば出していただきたい。

【北澤（正）委員】

そうであれば、少なくともそういった話を事前にもらいかった。事務局からもそういった連絡があっても良かったのではないか。結局、この資料の内容が案ではなく、計画の実行ありきで話が進んでいる、それはいかがなものかと思う。

【藤田会長】

この場で、良い、悪い、実施する、しないといったことも含めて意見をもらいたいと思っている。またそのつもりで進めてきたつもりである。

【北澤（正）委員】

正直、事前にもう少し早く情報が欲しかった。今回、初めての委員ということで不慣れな部分もあり、事前に情報があればいろいろ調べて何か活動に関して提案できるものがあったかもしれないという思いはある。

【池田副会長】

会議の前にはテーマを決める必要があり、藤田会長の言うように活動計画案として出され、皆さんからの意見により決定したわけである。出張地域協議会の項目では北澤（正）委員からも実施不要の意見等が出て、それはそれで良いと思う。そして資料には他の活動計画案もあるので、それを見て考えるということで良いのではないか。それでも何か不明なことがあれば事務局へ聞いた方が良いのではないか。ある程度テーマが無いと議論ができないのではないかと思う。

【北澤（正）委員】

活動報告の資料は最初の地域協議会の時に配付されて目を通してしている。しかし、今年度の活動計画に関しては事前に、今回は活動計画についての協議があるという話があって当

然だと思ふ。

【藤田会長】

委員一人一人が地域や浦川原区全体の問題等について、意見書を出す制度がある。その辺については委員のマニュアルにも記載されている。忙しいとは思ふがじっくりと読んで、何か提案事項があれば、ぜひ提案してもらいたい。それを自主審議とするかどうかはこの場で協議することになる。

【北澤（正）委員】

了解した。

【藤田会長】

他にないか。

【五井野委員】

出張地域協議会において村松副会長が、傍聴人がいないのは寂しいと言ったが、確かに出かけると人は集まると思うが、その年4回の出張地域協議会以外、ここで開催している通常の地域協議会にいかにか人を集めるかが必要なのではないかと考える。

今は、住民自らが情報を見に行かなければわからない状況となっており、例えば、防災行政無線や総合事務所からのお知らせの活用など、この場に傍聴人を集める手段を事務局から講じてもらいたい。地域協議会だよりでも、その旨の記載が必要なのではないか。さらに、出張地域協議会の出先で、例えば、末広地区へ出かけた場合でも末広地区以外からの参加を呼びかけることも必要だと思う。また、委員も「地域協議会を傍聴しに来てみないか。」と声掛けしながら傍聴人を増やしていけば良いのではないか。

【池田副会長】

出張地域協議会を開催しても傍聴人が1人や2人といった場合が過去にあった。しかし、5～6年ほど前に小学校の統廃合の話があったときは、浦川原区にとって大きな問題であったため、4地区を回って地域協議会を開催した。その時は15人、20人といった人が傍聴に来ていて、非常に活発な会になった。その皆さんの数多くの意見をまとめて3小学校の統合、今の浦川原小学校へつなげることができたと思っている。

今、目の前に浦川原区全体に係る大きなテーマは無く、なかなか人は集まらないと思うが、町内会長や4地区協議会の会長などからの協力により人を集めることも必要なのではないかと思う。また、五井野委員の言うように、私たち委員が2人でも3人でも声をかけていくことも必要ではないかと考える。

【横田所長】

先ほど防災行政無線での告知という話があったが、対応は可能である。

【藤田会長】

よろしく願います。

【横田所長】

確認だが、次回の地域協議会の開催日程を今回の地域協議会で決定するため、事務所からのお知らせの発行のタイミングと合わない場合がある。そこで、例えば、第何週の何曜日に地域協議会を開催するといったように、時間も含めてある程度固定化してはいかかか。「地域協議会の日」として決めれば足を運ぶきっかけになるのではないかと考える。今後検討いただきたい。

【藤田会長】

了解した。

【春日委員】

自主審議事項を事前に会長に文書で示し、この地域協議会の場で協議することは理解できるが、地域協議会の中にもう少しフリートークができる時間を設けることも必要なのではないか。

【藤田会長】

その時間は十分とれると思う。そして、五井野委員の発言内容については皆さんも同じ気持ちであると思うが、例えば、浦川原区の場合、皆さんが仕事を持っていることから夜の開催としているが、他区では委員の大半が高齢で夜の開催はできないことから昼間に開催しているところもある。

先ほど横田所長から話のあったように、ある程度日時を固定化して決めるというのも一つの方法であり、また、土日を利用して開催するというのも現実として「あり」だと思っている。これについても協議していきたいので、できるだけ広く意見を拾い上げながら良い方法を示していきたいと思っている。

皆さんは地域住民の代表であるため、常にアンテナを張って、自主的に提案してもらいたい。他に何かないか。

（会場内より「なし。」の声

それでは、これにて第4回浦川原区地域協議会を閉じる。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。